





石内には『高山(たかやま)』という山があります。 昔から、石内や周辺の人たちから親しまれてきました。 歩いたり、眺めたり、愛でたり…… 四季折々の魅力が、たくさんあります。 この本は、そんな高山をこよなく愛する仲間が集まって作った、 石内の高山を紹介する本です。





ようこそ、石内へ ようこそ、石内の高山へ

いしうちのたかやま 高山 (向山) のガイドブック



はじめに

高山が好き!

石内地区は西風新都の開発計画に伴い、住宅団地や幹線道路の建設など地域の都市化が進んでいますが、石内地区背後の高山(向山)、中央にホタルの飛ぶ石内川、その周辺の田園風景、そして、多くの歴史・文化資源にも恵まれ、広島近郊には無い自然環境と都市活動が調和する『ゆったり』とした風が流れています。

この石内の良さを再発見し、住み良いまちづくりを考えるきっかけづくりとして、石内を探検する講座がこれまで数多く行われていましたが、平成19年7月頃、地域の身近な山を紹介するガイドブックを見られた方が「私たちもこんなのが作りたいね」「石内なら高山がええよのう」という声が出たことを契機に『高山のガイドブックづくり講座』を開設しました。

それぞれが忙しい中、毎月、高山へ登り、山道の整備、歴 史上に伝えられている場所の探索、植物観察などを行い、3 年越しで「高山のガイドブック」が完成されました。

高山は、石内の身近で気軽に登れ、区内はもとより宮島や 瀬戸内海が一望に見渡せ、源平時代の歴史ロマンと植物観察 も楽しめる山です。

このガイドブックを手に高山へ登って、石内の魅力を知っていただき、自然と調和した豊かな未来を創造する石内のまちづくりにつながれば幸いです。

平成23年3月

(財)広島市ひと・まちネットワーク 石内公民館

■「高山」は一般の地図には「向山」と表記されていますが、石内では古くから「高山」と呼び、親しんでおりましたので、本書ではあえて「高山」としています。

- ■いつまでも豊かな自然を楽しむために、持ち 込んだゴミなどは持ち帰りください。
- ■自然の動植物は、自然にあるから美しいのです。 むやみに傷つけたりしないでください。

もくじ

EU A = = 5	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 1 • 2
高山へ行こう	高山のはなし・高山と向山・高山と石内・高山の歴史・・・ 高山へのアクセス・高山のスタート地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
高山を歩こう	高山コースマップ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	■ B ⊐ − Z · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	● C ⊐−Z ······	17
	● D 1 ⊐−ス ···································	21
	● D 2 ¬── × · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	わたしのオススメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
高山の植物	<u> </u>	27
高山の植物		
高山の植物	春に楽しめる樹木 夏に楽しめる樹木 秋に楽しめる樹木 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
高山の植物	夏に楽しめる樹木・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37
高山の植物	夏に楽しめる樹木 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41
	夏に楽しめる樹木 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41
	夏に楽しめる樹木 秋に楽しめる樹木 高山で楽しめる草花 高山の動物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41 43 45
	夏に楽しめる樹木・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41 43 45 47
	夏に楽しめる樹木・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41 43 45 47 49
	夏に楽しめる樹木・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35 37 41 43 45 47 49 51

■本書では、主なコースを掲載していますが、 枝道が多くあります。マップをよく確認するな どして迷わずに歩いてください。

高山 のはなし

高山(たかやま)は、佐伯区五 日市町石内と安佐南区沼田町伴 奥畑地区の境界線上にある、標 高665.9mの山です。

一般には、『向山(むかいやま)』 と呼ばれていますが、佐伯区側 の石内地区、河内地区、八幡地 区の人たちは、富士山のように 均整のとれた美しい姿から高山 と呼び、親しんできました。



石内から見る高山

高山 と向山

山は見る方向によって、姿形が違って見えます。佐伯区側からは高く美しい姿 から『高山』と呼ばれていましたが、安佐南区沼田町側からは、稜線が長く見えて、 川がお互いに向かいあっているように見える様子から、『向山』と呼ばれていた ようです。

明治31年に、帝国陸軍陸地測量部(現在の国土地理院)が、当地の地図を作成 する時に、安佐南区側からの呼び名である向山を採用したことから今日では、一 般的に向山と呼ばれています。



佐伯区側から見た高山



安佐南区側から見た向山(高山)

高山と石内

戦前まで、高山の石内地区分は石内村の村有林として、地区ごとのカヤ場など があり、マツタケもたくさん採れていました。

石内尋常高等小学校 校歌

作詞・作曲 永井建子

高いやま ながい水

ながめ親しい 石内児童

ここに学びて 色めざましく

花と咲きでよ 未来のつちに

二世の民くさ根づよくも

(1番のみ)

昭和10年頃~昭和20年頃まで歌われた 校歌です。それ以前の校歌にも、同様の 歌詞で歌われています。

Cコースにある「幸の神(さいのか み) 跡」には小さな祠があり、子宝祈 願にお参りする人もあったようです。

戦前に作られた石内小学校の校歌 (永井建子作詞作曲) や、運動会など の応援歌「水晶ヶ城(すいしがじょう)」 にも歌われていて、大人から子どもま で生活の一部として愛されてきました。

永井建子(ながいけんし) 1865生~1940没 石内出身。日本陸軍軍楽隊第6代軍楽隊長。 音楽家・作曲家。

代表作:『元寇』『雪の進軍』など多数。

高山の歴史

高山の名称は、文政2年(1819年) に石内村から安芸国浅野藩へ出された 「国郡志御用二付下調帳」に出てくる 記録が最も古く、石内村にある山とし て紹介されています。

それには、高山に「固目ヶ岳」「手 打が滝」「源氏大休みの壇」などの名 勝があることと、山頂からの眺めが書 かれています。

また、古い地図には「多加山」とも 書かれていますが、それは当て字だと 思われます。



高山が「多加山」と書かれた古い地図

高山 へのアクセス



広電バス停「セントラルシティ中央」下車。 徒歩10分。

石内公民館から4km、徒歩50分。

笹利

広電バス停「藤の木団地」下車。徒歩25分。 石内福祉センターから4.2km、徒歩60分。

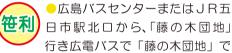
- 1 石内小学校
- 2 石内公民館
- 3 石内福祉センター
- | 4 藤の木小学校
- 5 フレスポ・ショッピングセンター
- **6** A-シティ
- ↓ ⑦ 広島県運転免許センター

高山 スタート地点

神原 団地行き広電バスで「セントラル

シティ中央」で下車すると、西側 前面に大きな山が見えます。この山が、 高山です。

- ・レッツ前の横断歩道で、こころ外周道路を渡ります。10分ほど歩くと、外周道路が右へ大きく曲がるところで、左の道へ行きましょう。杉林を通り抜けると、民家と「神原のシダレザクラ」が見えてきます。
- ○ここが、高山への『神原』からのスタート地点です。



下車すると、正面に高山が見えます。

- ・藤の木小学校のグラウンドよう壁沿いに歩き、藤の木幼稚園を左に曲がり、下り坂を進むと、ゴミ焼却処理施設佐伯工場に出ます。
- ●ここから、北へ上っていくと『**笹利**』 からのスタート地点です。

近隣の公共施設

■ 石内公民館 佐伯区五日市町石内 3289-1

tel. 082-941-0120

■ 藤の木公民館 佐伯区藤の木 2 丁目 27-7 tel. 082-927-2496

- ●休館日:毎週火曜日・国民の祝日・8月6日・年末年始
- ●休館日:毎週火曜日・国民の祝日の翌日・8月6日・年末年始





高山 コースマップ



高山を歩くコースは、主に4コースあります。それぞれ「神原(かんばら)」 地区と「笹利(ささり)」地区からスタート。どのコースにも見所があり、季節を通じて、いろいろな楽しみを感じながら歩くことができます。整備されていない道が多く、自然を満喫できるでしょう。



神原~村境~山頂

約1時間45分

急な坂道もありますが、ヤマザクラや カナクギノキ、コシアブラなどの大木 が見られます。開発が進む「こころ」 や安佐南区方面の景観が楽しめます。



笹利~村境~山頂

約1時間30分

天気の良い日には、スタート地点から 宮島の大鳥居が見えることもあります。 スタートから、一気に山頂へ上れば、 見晴らしは抜群!



神原~古道~笹利

約50分

比較的、アップダウンの少ないコース ですが、山頂へは上がりません。昭和 初期頃は、生活道路として利用されて いました。



D1 神原〜, D2 笹利〜 源氏大休みの壇〜山頂

D1約1時間30分**D2**約1時間20分

源氏大休みの壇を中心としたコース。神原からがD1、笹利からがD2コースです。A、B、Cコースとの往路や復路としてもいいでしょう。





神原のシダレザクラに見送られ、山頂を目指そう! 神原~村境~山頂 約1時間45分



- ■桜の咲く頃には多くの人でにぎわう神 原のシダレザクラ①からスタートします。 むと鉄塔17、さらに進むと電波反射板 北へ向かって車道を進むと「こころ」の 外周道路に出ます。砂防堰堤の工事用道 路を上がると、左手に**上り階段**②。42段 ある階段を上ると、続けて83段の階段。 上りきったら、いよいよ山道になります。 そうとした樹林帯。かなり急な上りにな ■トって行く尾根は、旧石内村と旧伴村 の村境(今は佐伯区と安佐南区の区境)
 - です。イノシシのヌタバ34を越えて進 ⑤。ここからは、西風新都や神原湖(梶 毛ダム)、西ヶ城跡や釈迦が岳などが見 渡せるので、一息つきましょう。
 - ■ヤマザクラの大木⑥辺りからは、うっ り、倒木もあるので気を付けて歩きまし よう。

神原~村境~山頂





- ■尾根を上りきると稜線の三叉路に突き 当たるので、左方向へ進みます。ここか ら、稜線伝いに歩くと、カナクギノキ8 コシアブラ9コナラなどの大木が多くあ り、うっそうとした樹林が続きます。春 から夏にかけては、いろんな草花が目を 楽しませてくれることでしょう。
- ■コシアブラ⑨の大木を過ぎると、最後 の上り。右側(奥畑側)には、アセビの

古木が見られます。すると、まもなく三 等三角点のある山頂⑩へ到着します。

■山頂は、樹木に覆 われて展望が無いの で、休憩をしたり昼 食を取るなら、Bコ ースにある「奥原の 岩場」まで足を延ば すと良いでしょう。





神原のシダレザクラに見送られ、山頂を目指そう! 神原~村境~山頂 約1時間45分













① 春には大勢の見物客でにぎわう神原のシダレザクラ。樹齢約350年と言われています ② 工事用道路から上がる階段 ③ イノシシのヌタバ ④ 泥浴びした後で、体をこすりつけ、樹皮がはがれた木がヌタバ近くに ⑤ こころ方面の見晴らしが気持ちいい反射板 ⑥ ヤマザクラの大木

神原~村境~山頂













古くは、谷のことを「えき」と言われていたことから名付けられたと思われます。高山で唯一の滝らしい滝です。

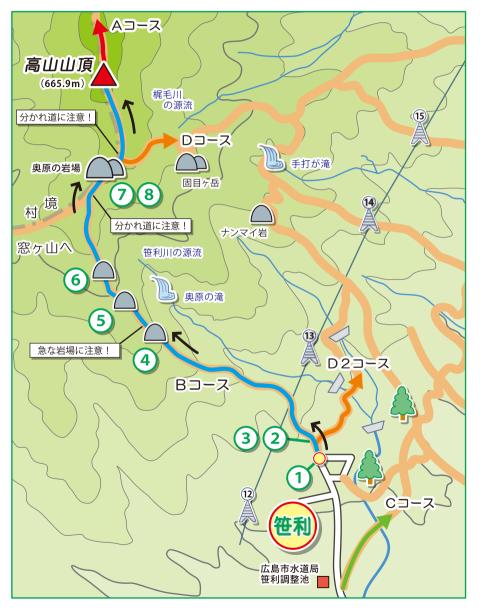
Ⅰ Aコースからは、30分程度で往復でⅠ きるので、時間に余裕のある時には、Ⅰ オススメです。

⑦ 落差約13mの大谷の滝 ⑧ カナクギノキの大木 ⑨ コシアブラの大木 ⑩ 山頂には「高山のガイドブックづくり講座」で作った『高山』の名前の由来を書いた説明板を取り付けています





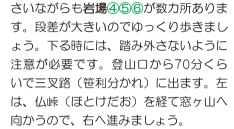
観音様が横たわる宮島を眺めながら、一気に山頂へ! 笹利~村境~山頂 約1時間30分



笹利~村境~山頂



- 世利からの車道をまっすぐ登った突き 当たりに住宅地があり、ここをさらに進むと、BコースとD2コースへの登山口 ①があります。コンクリートよう壁の右端に沿って上るとすぐに、分かれ道になり、右へ進むとD2コースなので、左の山道②へ入ります。
- ■山道へ入る前に振り返ると、展望が開けて瀬戸内海などが一望③。観音様の寝姿に見える宮島も見え、天気が良ければ 朱色の大鳥居も見ることができます。
- ■Bコースは一本道なので迷うことはありませんが、かなり急な坂道が続き、小



- 笹利分かれから10分くらい上ると、奥原の岩場⑦と呼ばれている岩場に到着。 展望は抜群®で、瀬戸内海の島々や広島 市内などが一望できます。
- ■さらに緩やかな稜線を上っていくと、 まもなく山頂です。





- ① 道路の突き当たりから 登山道が始まります
- ②「向山」の看板が向い てる方が、Bコースです
- ③ 振り返れば、宮島と瀬 戸内海が見えます



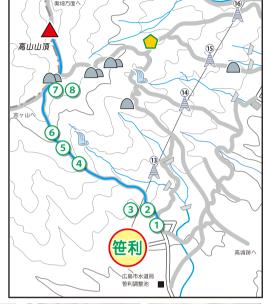
===

観音様が横たわる宮島を眺めながら、一気に山頂へ!















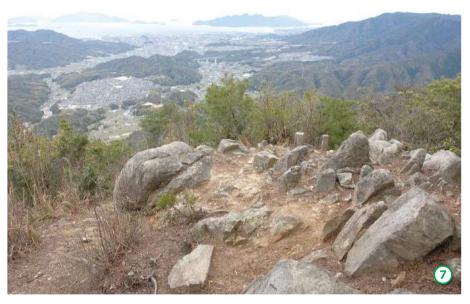
4 5 6 連続して現れる 岩場、段差が高いので 落ち着いて登りましょう

A 真っ赤な色のタマゴ タケ B 松の切り株か ら生えていたマツオウジ C 松の幹から生えたヒ トクチタケ



笹利~村境~山頂









- ⑧ 眼下には、広島市内や瀬戸内海を一望
- D 各所に、木などに取り付けられた案内板があります





歴史の道をたどりながら、古の生活道を往く!

神原~古道~笹利 約50分



- ■神原のシダレザクラから石の古道標識
 ①②③に沿って南西に向かい、舗装道路を歩き始めましょう。まもなく、広い道路に出会うので、右に進むと神原の集会所、そのまま広い舗装道路を歩くと、正面突き当りに階段④が見えてきます。
- ■この階段は、急で踏み幅も狭いので足を踏みはずさないように、気を付けて上りましょう。
- ■階段を上ると、右に墓地、左に溜池。 ここを通りぬけると山道に入り、砂防堰 堤が見え、沢に出ます。この沢の上流に 「手打が滝」があります。
- ■さらに、もうひとつの沢を渡ると三叉路になり、右へ上ると鉄塔14(Fコース)へ行くので、直進して急な坂を進みましょう。下りたらまた、沢があり、さらに上ると、十文字の印がある境界石⑤⑥があります。十字路になっていますが、ここも直進します。

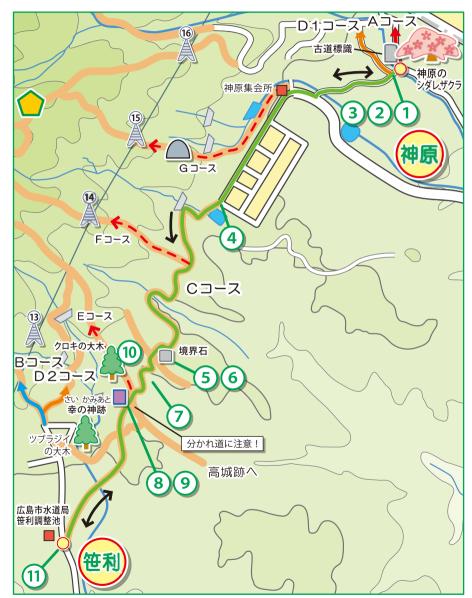
- ■境界石から緩やかな下りを10mほど進むと、左へ折れ進む踏み跡があるので行ってみましょう。その先には、直径1.5mもある、高山最大の猪のヌタバ⑦があります。
- ■もとの道に引き返し、南西 方向へ進むと、幸の神(さい のかみ)⑧⑨が祀られていた 大きな岩に出会います。
- ■岩の上には、大正の頃まで
- は小さな祠があり、子宝に恵まれるよう お参りしていたそうです。この尾根は梶 毛川と笹利川の分水嶺でもあり、近くに はクロキの大木⑩があります。
- ■ここは四叉路になっているので、直進します。道なりに下り、沢を渡りさらに下ると**車道**⑪へ出ます。車道の向かい側には、広島市水道局の笹利調整池があります。
- ■神原から笹利へのコース紹介でしたが、 笹利から神原へ進むのもオススメです。



① 歴史を感じる古い石の標識 A 生い茂る草をかき分けて

神原~古道~笹利







歴史の道をたどりながら、古の生活道を往く!

神原~古道~笹利 約50分





- ② 古道に建てられた石の道しるべ
- ③ 今も道を行く人たちの安全を願って、以下の文字が読みとれます

左上り山道







- ■Cコースは「古道(こどう)」と呼ばれ、 昭和の初め頃までは生活道として利用されてきました。現在の安佐南区沼田町伴の奥畑地区と石内笹利地区、河内、上小深川地区を結んで人や荷物などが流通していたと思われます。
- ■コース沿いの所々に、昔の畑や田んぼの跡があります。現在では木が生い茂っていて日当たりが悪くなっていますが、 農繁期には、家族総出で弁当を持って農作業に訪れていたそうです。



- ④ 急な階段を上がると墓所になっている ので静かに歩きましょう
- ⑤ 村有林の境界を表す境界石で一休み
- ⑥ 石には十文字が刻まれています
- ⑦ 高山で最も大きなイノシシのヌタバ

神原~古道~笹利





● 幸の神跡 (さいのかみあと)

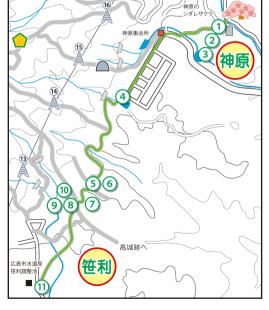
岩の上についているくぼみは、祠の屋根から滴り落ちる雨水でくぼんだとも、子宝を祈願した女性たちが石を突いてくぼませた、とも言われています。江戸時代の古地図にも載っています。







- ⑧ 子宝信仰のあった幸の神跡⑨ 岩には、いろいろな言い伝えがあるくぼみ⑩ 幸の神からすぐ上にはクロキの大木
- ⑪ 笹利側は大きな看板が目印



19



源氏の足跡を探しながら、木立を行こう!

神原~源氏大休みの壇~山頂 約1時間30分



- ■D1コースは、神原のシダレザクラの 横を流れる梶毛川に架かる橋を渡って、 すぐに右へ折れて山道①(林道)を上って 行きます。
- ■上ってすぐ、目の前に大きな砂防堰堤が現れ、舗装道路に出ます。ここで右の山道(林道)に入り上って行くと、道が大きく右に曲がるところで左の山道へ上りましょう。分かりにくいので、注意が必要です。かなり急坂な山道が続きますが、まもなく鉄塔16へ。鉄塔の下は開けているので、休憩するには良いでしょう。
- この尾根の右側にある谷は大谷(おおえき)と呼ばれています。ここからはAコースの鉄塔17と電波反射板が見えます。
- ■休憩を取り上って行くと、周りはヒノキ林に変わり緩やかな道となって、笹利から上ってくる道と出会います。この合流地点付近が、源氏大休みの壇②と言われていて小さな案内札がかかっています。 ■この先からは、笹利からのD2コース

と合流します。

神原~源氏大休みの壇~山頂





● 源氏大休みの壇(げんじおおやすみのだん) ▮

源平合戦の時、源範頼(みなもとののりより)が平家を追って西国から九州へ向かうと途中で、数日、陣を敷き、お休みになった所と言われています。

吾妻鏡に範頼は、元暦元年(1184年)旧暦8 月6日に鎌倉を経ち、旧暦9月12日安芸国 に入り、旧暦11月14日周防に去ったとある ところから、晩秋から初冬にかけて石内に 滞在して、石内の人たちと交流があったと 思われます。

■ それは、範頼神社や則頼の地名が今に残さ ■ 防の島々を望んだこ ■ れていることから推測できます。 ■ とでしょう A 固目

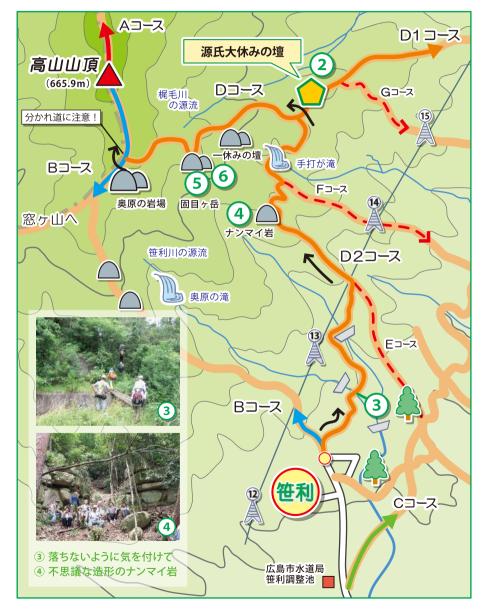


では、範頼はここから 平家縁の宮島や周 防の島々を望んだこ とでしょう A 固目 ケ岳から宮島を望む





自然が生み出した岩の芸術や眺めを楽しむ! 笹利~源氏大休みの壇~山頂 約1時間20分



笹利~源氏大休みの壇~山頂







⑤ 眺めが良いので、休憩や お弁当を食べるに最高です ⑥ 開発が進む「こころ」の団 地が広がります

- ■D2コースのスタートは、Bコースと 同じ所から上り始めます。上り始めて直 右へ進みましょう。
- ■まもなく、平成11年の6·29豪雨災害 があった後に作られたコンクリート製の 大きな砂防堰堤が見えてくると、三面張 りの小さな川があり、目を下流に向ける これを渡って上りましょう。
- 鉄塔13へ向かう道を進むと、鉄塔13の 手前15mほどのところで、右へ下る道が あるので、これを下りると沢があり、土 砂に埋もれた砂防堰堤があります。沢を 渡り、上り道の踏み跡を見つけ上って行 きましょう。まもなく、梶毛川と笹利川 の分水嶺の尾根に出て、少し、展望が開 けます。

- ■なおも上ると**ナンマイ岩**4。何枚も重 なった岩が左右にあるので門のようにも ぐ分かれ道になり、左はBコースなので、 見えます。誰かが造ったように見えます が、自然の岩組らしいです。この谷は、 ナンマイ谷と呼ばれています。
- ■さらに進むと、右側から合流してくる 道があり、右へ下ると鉄塔14へ至る(F コース) ので、左へ上りましょう。まも と、杉で作られた**丸太の橋**③があるので、 なく、手打が滝の上に出ます。手打が滝 から緩やかな道をさらに上ると、ヒノキ 林になり、源氏大休みの壇で神原からの 道と合流します。
 - ■そのまま急な坂を上ると、一休みの壇 を経て固月ヶ岳5と呼ばれる岩場に着き ます。どちらも展望が良い6ので一息入 れましょう。さらに上ると、奥原の岩場。 ここからはBコースになり、川頂へ向か いましょう。

わたしのオススメ

高山には、たくさんのコース(道)があり、楽しみ方もたくさん! でも、どこを歩いたらいいのか迷いますよね。

高山のガイドブックづくり講座の人たちに、おススメのコースを 教えてもらいました。

■Bコースは岩場と急な坂道で苦し I ■神原をスタートしてAコース~D いのですが、私のような老人がたび たび休んでも短時間で登れます。立 ち木が無いので展望がすごく良く、 一番長いコースですが、展望も良く、 眼下の住宅から瀬戸の島々まで見ら れます。岩の上で昼食をとり、A~C を通って笹利に帰れば、木立の中で 涼しいですね。 (道添富造)

■Bコースから上がってAコースを 下り、Cコースにて笹利に戻るコース をおススメレます。健脚向きですが、「 高山の登山道を外周し、景観の変化 と岩場や樹木、沢ありと、バラエ ティーに富み楽しめます。ゆっくり 歩けば大丈夫。ぜひ、チャレンジし てください。 (信末喜美子)



手打が滝の上流

2コース~笹利~Cコースで神原に 戻るコースがおススメです。急登で、 春に咲く、ホオノキやヤマザクラを、 ぜひ見に来てください。

(田中由美子)

■私は、足があまり強いほうではな いのですが、高山からの展望には、 何か引き付けられるものがあります。 私の足でオススメなのは、笹利側か らBコースで奥原の岩場、固目ヶ岳 で眺望を楽しみ、食事で満足感を味 わい、手打が滝を通って、Fコースか ら笹利に帰るコースです。

(上土井博司)

■私のおススメは、同じコースを歩 くことなく、いつでも自分で考えて コースを選択できることです。とくに、 Aコースで山頂を越えて奥原の岩場 からD1コースで固目ヶ岳を経由し て源氏大休みの壇を通って神原へ。 または、手打が滝から笹利を経てC コースで神原へ…変化に感動します。

(久保田 昭)

■D2コースを歩くと、4~6月に | ■D2コースがオススメです。D2 はコバノミツバツツジ、ヤマツツジ などが咲きます。Aコースではヤマザ クラ、ホオノキ、ヤマアジサイが咲 きます。季節ごとに咲く花によって、 A~Dのコースを組み合わせて、川 に入ります。 (内谷新太郎)

■笹利からBコースで上がって、奥 原の岩場~固目ヶ岳からの展望を楽 しみ、Aコースで下りてCコースで戻 るのが好きです。 (橋谷田降家)

■Bコースで登って、固目ヶ岳に行き、 手打が滝を通りD2コースで下り、 幸の神跡に帰るコースが好きです。 とくに、元日の朝に固目ヶ岳へ登り、 釈迦が岳より昇る初日の出。初めに 神原、次に野登呂、そして観音千同 へと日が差して行くのは神秘的です。

(加古川辰男)



固目ヶ岳から望む初日の出

■私は、五日市町上河内の白川バス 停から窓ヶ山を経由して高山に登り、 神原のシダレザクラに下りてくる縦 走コースがオススメです。

(吉原禮子)

コースの一部は、地域の古老に聞く と「横道」と呼びます。高山に関係 する昔の文献に登場する道の多くが D2コースです。手打が滝や源氏大 休みの壇、固目ヶ岳など、源範頼に なりきって歩きましょう。(奥田耕司)



源氏の武士が歩いたかも…

■Bコースから上がってAコースに 下るコースがおススメです。Bコース の上りは少々キツイですが、奥原の 岩場に着くとホッとします。下りの Aコースはヤマザクラの大木を過ぎ ると、視界が広がります。桜の若木 がたくさん植えてあるので、花の咲 く頃も楽しみ! (内谷義美)

■D1コースからHコースを行くと、 水と岩場を楽しみ、大谷の滝を眺め Aコースへ。下界を眺め、石内一番 のヤマザクラを見て森の中に入り、 尾根で大木を楽しみ、奥原の岩場か 固目ヶ岳で昼食を取り、手打が滝、 ナンマイ岩を過ぎ幸の神跡からCコ ースで神原のシダレザクラに帰る。 これが一番最高のコースです。

(田中孝雄)

高山 の植物 春に楽しめる樹木

高山を歩くと、それぞれの季節で木や花を楽しむことができます。 美しい花を見たり、大木に囲まれることも、 山歩きの魅力のひとつですね。

高山の春も、たくさんの植物が花を咲かせます。 鮮やかな新しい緑の葉と一緒に、お楽しみください。



クロキ(黒木)

ハイノキ科 常緑高木 (撮影: 3月25日)

黒っぽい樹皮から黒い木・クロキと名付けられました。早春に白い花を咲かせます。1cmほどの楕円形の果実は、黒く熟します。落葉は黄色です。 Cコース幸の神跡に大木があります。



キブシ(木五倍子)

キブシ科 落葉低木 (撮影: 3月29日)

3~4月の葉が伸びる前に、淡黄色の花を穂のようにつけます。まだ、花が少ない時期なので、よく目立ちます。雌株では、小さな丸い果実が房状に垂れ下がります。



ヒサカキ

ツバキ科 常緑小高木 (撮影: 3月29日)

お墓やお仏壇へのお供えとして、多く用いられています。3~4月、枝の下側へ白っぽいクリーム色で、つぼ状に咲く花は強い独特な匂いを放ちます。雌株では、丸い果実が紫黒色に熟します。野鳥などの好物です。

石内では「サッコウ」と呼ばれていました。





コショ**ウノキ** (胡椒の木)

ジンチョウゲ科 常緑低木 (撮影:4月2日)

6月頃に熟す赤い実が、コショウのように辛いと ころから、この名前が付きました。シロバナジン チョウゲに似ていますが、花の数が少なく、花に 細かい毛があります。雌雄異株です。



タムシバ

モクレン科 落葉高木

(撮影:4月2日)

葉を噛むとキシリトールのような甘みがあるので

「カムシバ(噛む柴)」と呼ばれ、それが転じて「タムシバ」へ。早春に咲く白い花には芳香があります。

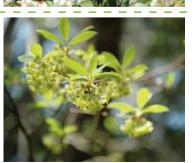


アセヒ

アセビ(馬酔木)

ツツジ科 常緑低木 (撮影: 4月11日)

早春、枝先につぼ状の白い花を咲かせます。葉に 毒があり、煎じて殺虫剤になります。馬が葉を食 べて苦しむ様から名前が付いたと言われています。



クロモジ(黒文字)

クスノキ科 落葉低木 (撮影: 4月11日)

若い枝の表面に出る模様を文字に見立てたことから、クロモジと名付けられ、古くからこれを削って楊枝を作ります。一部に皮を残すのが高級とされ、和菓子に添えられたりします。雌株では、丸い果実が黒く熟します。



春に楽しめる樹木



ザイフリボク (采振り木) バラ科 落葉小高木 (撮影:4月11日)

庭木や公園の木として利用されています。4月頃

に咲く白い花の集まった姿が 采配(写真右)に似ているこ とから名付けられました。果 実は熟すと黒褐色になり、食 べることができます。





ヤマザクラ(山桜)

バラ科 落葉高木 (撮影:4月11日)

日本の野生の桜では代表的な種で、和歌にも数多 く詠まれています。ソメイヨシノと異なり、葉と 花が同時に開きます。また、寿命が長く大木にな ることもあります。

中区江波山に咲くヒロシマエバヤマザクラは、一つの枝 に一重の花と八重の花が混じり合って咲きます。



シキミ(樒)

シキミ科 常緑小高木 (撮影:4月14日)

八角に似た果実には、食べると死亡する恐れがあ る程の毒が有り、悪しき実からシキミと呼ばれる ようになったとも言われています。

仏事に用いるため、寺院に植栽されていることが あります。



ナガバモミジイチゴ (長葉紅葉苺)

バラ科 落葉低木 (撮影:4月19日)

葉がモミジのように裂けています。果実は6月頃 に榜黄色に熟しておいしいです。二ガイチゴやビ ロードイチゴなどの果実も、この頃に熟し、食べ られます。





ミヤマガマズミ

スイカズラ科 落葉低木 (撮影:4月19日)

ガマズミに比べると葉は毛が無く、やや光沢があ

ります。春に白い花を多数 つけ、秋には赤い実が熟し、 食べられます。

(深山がまずみ)





コバノミツバツツジ

ツツジ科 落葉低木 (小葉の三葉躑躅) (撮影:4月19日)

早春、新しい葉が開くよりも早く、淡い紅紫色の 花を咲かせます。雄しべは10本。高山で最も多い ツツジです。日の当たる明るい林で咲きます。若 枝に毛があります。



シロバナウンゼンツツジ

(白花雲仙躑躅)

ツツジ科 半常緑低木

(撮影: 4月21日)

白く小さな花が枝先につきます。雲仙の名が付い ていますが、雲仙地方には自生していません。広 島市では「環境指標種」として指定されています。 セトウチウンゼンツツジとも呼びます。



モクセイ科 落葉高木 マルバアオダモ (丸葉青だも) (撮影: 4月29日)

葉の形や葉先が丸いから「マルバ」なのではあり ません。葉の縁がアオダモのようにハッキリした 鋸状のギザギザではなく、浅くて目立たないとこ ろから「マルバ」と言われています。雌雄異株です。



高山の春に楽しめる樹木



ツルシキミ(蔓樒)

ミカン科 常緑低木 (撮影:5月4日)

雪が多く降り積もっても、枝はしなり折れにくく

なっています。4~5月に、 枝先へ白い花を咲かせま す。晩秋から冬の赤い果実 には毒があります。雌雄異 株です。



ダイセンミツバツツジ (大山=葉躑躅) ツツジ科 落葉低木(撮影:5月5日)

4~5月頃に紅紫色の美しい花が咲き、その後に出てくる葉は、枝先に3枚つきます。コバノミツバツツジと違って、若枝は無毛です。葉柄には、軟らかい毛が密生します。



スノキ(酢の木)

ツツジ科 落葉低木 (撮影:5月9日)

4~6月頃、前の年の枝先へ垂れ下がるように花を咲かせます。果実は黒褐色に熟し食べられます。 その果実や葉をかじると、酸っぱいところから名付けられました。



ツブラジイ (円ら椎)

ブナ科 常緑高木 (撮影:5月9日)

5月頃に、房状に淡い黄色の花を咲かせます。特 有の強い匂いで虫を誘います。単にシイ(椎)と 呼ばれ、果実は丸みがあり、渋みが無くて食べら れます。





ヒメヤマツツジ (姫山躑躅)

ツツジ科 半落葉低木 (撮影:5月9日)

広島県と山口県に分布し、ヤマツツジより葉や花が小さく花筒が長いです。花は4~5月に枝先へ2~3個、重なり合うようにつきます。雄しべの数は5本。



ホオノキ(朴の木)

モクレン科 落葉高木

(撮影:5月9日)

全国の山林で見ることができ、樹高30m、幹の直径1m以上になるものもあります。大人の掌に余るほどに大きな白い花は、輪生状に開く葉の真ん中から真上に向かって咲きます。花と葉には強い芳香があり、葉は料理に用いられます。



コガクウツギ
(小額空木)

ユキノシタ科 落葉低木 (撮影:5月15日)

初夏に白い装飾花が目立つ花を付けます。6月初 旬ごろまで、道端の日が良く当たるところで楽し めます。

Aコース反射板付近で多く見られます。



ウラジロノキ(裏白木)

バラ科 落葉高木 (撮影:5月11日)

葉の裏が密生する綿毛によって白っぽく見えるこ

とから名付けられました。高さは15m前後にもなりますが、高山では、それほどの大木は見られません。





春に楽しめる樹木



アマギコアジサイユキノシタ科 落葉低木(天城小紫陽花)(撮影: 5月 19 日)

天城山系で発見されたので、この名が付きました。 コアジサイとコガクウツギの自然交配種で、コア ジサイより葉の幅が狭いのが特徴です。



エゴノキ

エゴノキ科 落葉小高木

(撮影:5月19日)

果実を噛むと喉や舌を刺激してえぐい(えごい) ことから、その名が付きました。昔は若い果実を 石鹸と同じように、洗濯などに用いていました。 堅い種子は、お手玉の中に入れると良い音がしま す。



カマツカ(鎌柄)

バラ科 落葉低木 (撮影:5月19日)

材に粘りがあり折れにくいことから、カマ(鎌)

やナタなどの柄に利用されています。果実は、楕円形で10~11月に赤く熟します。





コバンノキ (小判の木)

ドウダイグサ科 落葉低木 (撮影: 5月19日)

小ぶりで端正な形をした葉が秋に黄葉し、小判に見えることから名付けられた、とても縁起の良い名前の木です。同じ枝に、雌花と雄花がつきます。 小さな丸い果実が黒く熟します。花のついた小枝は、晩秋に落ちます。





タンナサワフタギ (耽羅沢蓋木)

ハイノキ科 **落葉低木** (撮影:5月19日)

朝鮮半島の南にある済州島で発見され、その古い名が「タンナ」であったことから、名が付きました。果実は黒く熟します。よく似たサワフタギの果実はルリ色です。



ヤブウツギ (藪空木) スイカズラ科 落葉低木

(撮影:5月19日)

枝が密生してやぶのようになることから、この名が付いたと言われています。初夏、谷沿いの道を歩くと美しい紅色の花を咲かせています。果実には短毛があります。



ガンピ (雁皮)

ジンチョウゲ科 落葉低木 (撮影:5月29日)

奈良時代から和紙の良質な原料として重用されてきました。紙を作るので、「カミノキ」という別名もあります。樹皮は繊維が強く、枝を折り取ることはできません。特有の匂いがあります。



ヤマボウシ (山法師) ミズキ科 落葉小高木 (撮影:5月31日)

6月頃に花が咲き、9月頃に実が熟し、晩秋には 紅葉するので、1年で3回楽しむことができます。 赤く丸い果実は食べることができ、マンゴーのよ うな甘さがあります。

高山の植物 夏に楽しめる樹木

高川の夏、豊かな木々の木陰に静かに咲く花。 虫の音だけが響き、さわやかな風が吹き抜けていきます。





ツツジ科 落葉小高木 (撮影:6月7日)

幹がねじれているところから名付けられました。 太い木では樹皮が白っぽい褐色で、縦に細長くは がれるので、ねじれているのがよく分かります。 薪にする時に斧の刃が、まっすぐに入らないので 割れにくい木として有名。花は、等間隔で下向き に白いつぼ形の花を咲かせます。



ハナイカダ(花筏)

ミズキ科 落葉低木 (撮影:6月7日)

葉の上に花を咲かせます。花の載った葉がイカダ のように見えることから名付けられました。別名

ヨメノナミダは、丸い 果実の形から付きまし た。黒く熟します。







コアジサイ (小紫陽花) ユキノシタ科 落葉低木 (撮影:6月13日)

アジサイ属に特徴的な装飾花が無く、小さな両性

花だけからなり、白色から淡 青色の5弁花が密集します。 ヤマアジサイ(写真右)は、 湿度の高いところに生え、別 名をサワアジサイと言います。







ヤマツツジ(山躑躅)

ツツジ科 半落葉低木 (撮影:6月13日)

斤陵や山地の日当たりの良い、やや乾燥した斜面 に生えます。花は朱色、雄しべは5本です。春に 出た大きめの葉は、晩秋に落ちます。夏に出た小 さい葉は、冬も枝先に残っています。



オオバヤシャブシ カバノキ科 落葉小高木 (大葉夜叉五倍子)

(撮影:6月16日)

痩せ地でも育つので、砂防緑化樹として植えられ ています。松ぼっくり状の果穂が斜め上に向かっ てつきます。

ヒメヤシャブシ(写真右)は、 房状に3~6個、小さな果穂が 垂れ下がります。



ネズ(杜松)

ヒノキ科 常緑高木 (撮影:7月11日)

針のように硬い葉をネズミ除けに使っていたので、 ネズミを刺すからネズミサシとなり、それが縮ま ってネズになりました。石内では「ムロノキ」と 呼びます。木は軽くて強いので、背負子や天秤棒 の材料に使われ、球状の果実は杜松子(としょうし) と呼ばれ、古くから生薬として利用されています。



リョウブ (令法) リョウブ科 落葉小高木 (撮影:7月11日)

若葉は山菜として食され、庭木としても植えられ ています。昔は、飢饉などの時に食べられたりも していたようです。別名、ハタツモリ。白い花を 多数つけるので、よく目立ちます。樹皮ははがれ やすく、ナツツバキに似ています。

高山 の植物 秋に楽しめる樹木

実りの秋は、高山にも恵みをもたらしてくれます。 多くの木々で、花や実を楽しむことができます。







クリ(栗)

ブナ科 落葉高木 (撮影: 9月14日)

古くは縄文時代から食用にされるほど、広く一般

に親しまれています。木は 硬く耐久性があり、鉄道の 枕木や家の土台材として利 用されてきました。





コシアブラ(漉油)

ウコギ科 落葉高木 (撮影: 9月14日)

樹液を漉して油を採ったことから、この名が付きました。また、枝をこすると皮が芯からきれいに脱げるので、これを刀と鞘(さや)に見立て「刀の木」とも呼ばれます。高山のいたるところで、見ることができます。春先に伸びる新芽は山菜として、おいしく食べられます。



ゴンズイ (権萃) ミツバウツギ科 落葉小高木 (撮影: 9月14日)

名の由来には諸説ありますが、役立たずとか食用にならないとの意味があると言われています。 5~6月頃に淡黄緑色の花を咲かせ、果実は秋に赤く熟し、割れて中から光沢のある黒い種子が出てきます。





ナツハゼ(夏櫨)

ツツジ科 落葉低木 (撮影:9月14日)

実は10~11月にかけ、ブルーベリーに似た黒褐色に熟し、甘酸っぱいため、生食のほか、ジャムや果実酒としても親しまれています。初夏に、ハゼノキのような紅葉が見られることから名付けられました。



マルバハギ(丸葉萩)

マメ科 落葉低木 (撮影:9月14日)

日当たりの良いところに生え、初秋の頃、紅紫色の1cmほどの花を咲かせます。花の穂が短いため、葉の間に埋もれたように咲く姿が、分かりやすい

特徴です。



ミツバアケビ(三葉木通)

アケビ科 落葉つる性 (撮影: 10月10日)

つるになって他の植物に巻きつく茎は、古くなると木質化します。実は、山遊びする子どもたちにとって、絶好のおやつとして親しまれてきました。 つるは、編んでカゴなどの工芸品になります。



コウヤボウキ(高野箒)

キク科 落葉小低木 (撮影: 10 月 10 日)

高野山で枝を束ねて、箒(ほうき)の材料としたので、この名があります。古くは玉箒(たまぼうき)と呼ばれて、万葉集などに出ています。1年目の枝先に花を付け、2年経った枝は枯れます。

37



高山の秋に楽しめる樹木



ヤブコウジ (藪柑子) ヤブコウジ科 常緑小低木 (撮影:10月10日)

正月の縁起物とされ、ジュウリョウ(十両)とも 呼ばれています。

落語「寿限無(じゅげむ)」に出てくる「やぶら こうじのぶらこうじ」のこととも言われています。



クサギ(臭木)

クマツヅラ科 落葉低木 (撮影:10月18日)

その名の通り、葉を揉むと臭い匂いがしますが、 茹でれば食べることができ、若葉は山菜として食

用になります。8~9月頃、枝先 に白い花が集まって咲きます。写 真の藍色の果実は草木染めの染料 として、利用されています。





シロダモ(白だも)

クスノキ科 常緑高木 (撮影:10月22日)

若葉には、黄褐色の絹毛があり、ビロードのよう

な手触りです。樹木全体に精油を 含む芳香があり、種子から採った 油は、ろうそくの材料になります。 雌株では、花と実が同時に見られ ます。





ソヨゴ(冬青)

モチノキ科 常緑高木 (撮影:10月31日)

高川の各コースで見ることができます。公園木や

庭木として、植栽されることもあ ります。ソヨゴの名は、風に葉が そよぐ木という意味を持っていま す。6月頃には、4mmほどの白く かわいい花を咲かせます。







ムベ (郁子)

アケビ科 常緑つる性 (撮影:10月31日)

10月頃に、5~7cmの果実が赤紫色に熟します。

アケビに似ていますが、アケビ のように裂けることはありませ ん。その甘い実は、宮中へ献上 されていた記録もあります。



ヤブムラサキ (藪紫) クマツヅラ科 落葉低木 (撮影:10月31日)

葉は、ビロード状の手触りが特徴です。6月頃に、 葉の脇に紅紫色の花をつけます。果実は、10月頃、 紫色に熟します。ムラサキシキブの果実より、や や大きめです。ガクは大きくて、毛が密生してい ます。



フユイチゴ (冬苺)

バラ科 常緑つる性 (撮影:11月12日)

9~10月頃、5弁の白い花が咲きます。果実は11 ~1月の頃に熟します。木苺の仲間で、甘酸っぱ い味です。1粒が1個の果実で、10個ほど集まっ ています。よく似た仲間にミヤマフユイチゴがあ り、両方の雑種もあります。



サルトリイバラ ユリ科 落葉つる性 (猿捕茨)

(撮影:11月14日)

棘(とげ)のあるつるが、猿を引っ掛けるところ から名付けられましたが、今日では、衣服を着た 人間の方が引っかかりやすいです。根茎を乾燥さ せたものが、生薬の山帰来(さんきらい)の代用 になります。雌雄異株です。

高山の植物 高山で楽しめる草花

足元に目を移せば、誰に知られることなく咲く花。 可憐な姿を探し求めてみてはいかがでしょうか。

















●ヤブレガサ

●サワハコベ





●ホウチャクソウ



●アマドコロ



高山の動物

動物たちにとっても、高山は生活の場です。 自然の大切な仲間です。高山を歩く時は、むやみに脅かしたり、 生活の場を荒さないようにしてくださいね。

イ/シシ・・・・・・

とても神経質で、警戒心の強い動物 です。普段見慣れないものなどを見か けると、それをできるだけ避けようと する習性があります。

また、突進力が強く、時速45 Km で 走ることができるので、山で出くわし ても、刺激しないように静かにその場 から離れましょう。



■イノシシが横になり転がりながら全身に泥を塗る様から、苦しみあがくという意味の「ぬたうちまわる」(**のたうちまわる**) という言葉ができました。



ダニなど体についた虫を落としたり体温調整するためによく、泥浴・水浴をします。イノシシが泥浴を行う場所は「**ヌ** タバ (沼田場)」と呼ばれ、高山にも数カ所あります。(写真左: Aコースのヌタバ)

泥浴をした後には、体を木にこすり付けます。(写真下:Aコースのヌタバ近くで)



高山には、タヌキやキツネ、サルなどの小動物たちも 数多く生息しています。

その痕跡からは、新しい生命も芽吹いてきます。

タスキ・・・・

人里近くの山林で生活しています。古 くから昔話やことわざに出てくるなど、 親しまれてきた野生動物です。その姿は、 とても愛嬌があります。





タヌキは、いつも決まった場所で糞をします。高山のコース上にも、その 場所を見ることができます。

雑食性で、木に登って柿などの果実を食べることもあり、その糞からは、 食べた種が新しい芽を出すこともあり ます。(写真左)

高山にも危険な生き物がいます。

出会っても、慌てないで速やかにその場を離れましょう。

● マムシ ● ヤマカガシ ● スズメバチ…など

近年では、クマも目撃されています。 クマ除けに、鈴やラジオなどで音を出すの が良いのですが、騒々しすぎるのは迷惑に なります。



マムシは、やぶや草むら、水場周辺で出会うことがあります。

高山の鳥



高山には、たくさんの鳥が生息しています。姿はなかなか見る ことができませんが、その声を聞くだけでも、癒されますね。 あなたは、何種類の鳥たちに出会えるでしょうか。







































■ハシブトガラス

■ハシボソガラス

■トビ

耳を澄まして、聞いてみよう!



夏に見ることができる鳥です。東南アジアなどから、日本へ里帰り して子育てします。







■オオルリ (オス)

チュピッ ツピッ

■クロツグミ (オス)

テッペンカケタカ

ジュビッ ジュル シュリ チュチュ ジュリ ■コシアカツバメ

ヒッヒッギュッギュッ



■ホトトギス (ウグイスへ託卵します)

トッキョ キョカキョク

ふゆどり

冬を日本で過ごすため、北の国からやってきます。



■アトリ

わたしはココが好き!

高山には、いろんな魅力がありますね。 眺めや山道、岩場や水場。花や木、鳥たち…… 高山のガイドブックづくり講座の人たちに、 高山の魅力を語ってもらいました。

■50歳を過ぎた頃から山登りが好きになり、現在も登っていますが、どこの山に登っても高山が一番好きです。子どもの時からD2コースで杉の下刈りや、秋になればマツタケ採りに行った思い出があります。長期間、家を空けて帰ってきた時などに高山を見ると、ホッとします。

(加古川辰男)

■この山は、地質の関係から植物の | 数が大変多いので楽しいです。永井 | 建子さんが石内小学校の校歌で歌わ | れているので、たいへん懐かしいです。 | 歌い出しの「高い山 ながい水~」 | で育てられてきましたから、この山 | は昔から高山です。 (田中孝雄)



冬、雪をまとった高山

■高山は石内バイパスから見ると、 堂々とした山です。窓ヶ山に負けて はいません。尾根道は高木が連立し て深山に入ったようで、静かな山歩 きができます。大木のイヌシデ、ア カシデ、コシアブラ、カナクギノキ、 低木のハナイカダ、コアジサイなど …植生が豊かです。 (吉原禮子)

■朝に夕に、自宅の2階正面に眺める高山は季節の移ろいを直に感じさせ、様々な表情を見せてくれます。四季を通じて、コース選び次第で誰でも手軽に登れ、大いに楽しめる里山です。とくに、奥原の岩場からの展望は雄大そのもので、心爽やかになります。優しさあふれる母のような山です。 (信末真美子)

■高山には、樹木も草花もいろいろな種類があり、四季を通してかわいい花に出会えたり、気付かなかった木の花に出会えたりが楽しみです。近くの山で、これだけ楽しませてくれる山も少ないのではないかと思います。 (内谷義美)

■高山は、奥原の岩場、固目ヶ岳か | らの展望である。南は瀬戸内海の島々、 | 東は呉の山々、北は芸北の山々が一 望できます。また、4~5月にはコ | シアブラの若芽が採取できます。し かし、なんと言っても一番は、里山 である高山を大切にしている石内の | 人たちがいることです。

(橋谷田隆家)

(奥田耕司)

■石内で生まれ、「高い山 長い水」の小学校校歌を歌って育ったので、心に残る山は他にはありません。退職して登山を始め、80歳で槍ヶ岳の頂上に立った景観は忘れられません。富士山も6回登りました。しかし、それとは異なった高山にしかない季節の植物や小鳥のさえずりに足が止まります。 (道添富造)

■どのコースにも急登(キュートーかわいい)あり、がんばって登った山頂は展望ナシ、このマニアックさが好きです。しかし、奥原の岩場、固目ヶ岳では山城の見張り台を連想させる展望は疲れを吹き飛ばしてくれます。 (田中由美子)

■奥原の岩場は展望が広がるのが良いですね。安芸の宮島、あまんじゃくの伝説がある津久根島など瀬戸の島々が見渡せます。それに釈迦が岳、京良木山など石内の山と、遠くには野呂山、白木山など多くの山の山座同定が楽しめる最高の場所です。

(内谷新太郎)

■高山には笹利川と梶毛川の源流があります。梶毛川の大谷(おおえき)の滝は、一度は見る価値があります。約13mの落差があり、一本の白いラインが緑に映えます。コースとしては、D1コースからHコースで沢を登るか、Aコースの電波反射板すぎから谷に下るのですが、どちらも滑りやすいので注意が必要です。(久保田 昭)

■私は、固目ヶ岳が好きです。D1コースを通って固目ヶ岳の岩場でゆっくり食事をする。ふもとに「こころ」の団地が開け、その背景には釈迦が岳、北東には武田山、南は瀬戸内海そして宮島が眺望できます。心を癒して下山すると、最高の気分になります。 (上土井博司)



爽やかな景色が広がる固目ヶ岳

石内

歴史と緑の散策コース



散策コース

石内公民館 1 → 難波一甫流の碑 1 → 有井城址 2 → 滝の観音 7 → 石内福祉センター 4 → 教徳寺 10 → 百石 8 → 臼山八幡神社 5 → 浄安寺 3 → 文化財収蔵庫 3 → 石内公民館

1 石内公民館 2 石内小学校 3 JA広島石内支所 4 石内福祉センター

5 フレッシュ石内 6 石内慈光園 7 三和中学校



神原のシダレザクラ(県天然記念物) 寒冷地を好むシダレザクラが、沿岸に近い この地で大木になることは大変めずらしく、 樹齢は約350年と推定されます。



臼山八幡神社境内の大樹群 タブノキ(県内第2位)、イヌマキ(県内第 2位)、スギなどの大樹がたくさんあり、神 社の歴史がうかがえます。



滝の観音 石内から草津へ通じる山田峠(ダオ)の道沿いに在り、信仰を集めていました。



教徳寺(浄徳寺) 寺号を徳美山教徳寺。本尊は観音菩薩です。



浄安寺境内のイチョウ(市保存制) イチョウには雄株と雌株がありますが、接ぎ 木されて雌雄一体になっています。 幹周り2.6m、高さ26m。



古山/ (W省1年代) 昔、水晶ヶ城の山麓に小さな祠として祭られていましたが、延歴年間(782~805)に、石内村の氏神としてあがめられました。



その昔、百個の石を川に並べて飛び石とし、 川向こうへ渡っていた名残りと言われてい ます。



石内出身の映画監督である新藤兼人が生誕 レ少年時代まで過ごした地に、平成20年8 月に碑が建てられました。



浄安寺薬師堂 本尊として薬師如来(県重要文化財)の木像 が、祭られています。



永井建子記念碑 明治〜大正時代にかけて、石内出身で日本 陸軍軍楽隊隊長を務めた永井建子の偉業を 讃えています。



湯戸のモチヅキザクラ(市保存樹) 教徳寺(浄徳寺)の境内にある大樹。樹齢 300~500年と推定されています。



新藤兼人の第48作目となる自伝的映画「石 内尋常高等小学校~花は散れども」の完成を 記念して、母校正門前に建てられました。



高山 と周辺の山、石内の山城跡



高川周辺の川

窓ヶ山 · · · · · · · 711.4m 鈴ヶ峰 · · · · · · · · 312.0m 鬼ヶ城山 ・・・・・・ 282.5m 京良木山 · · · · · · · 339.6m 釈迦が岳(大茶臼山)····· 413.2m ■「京良木山」「釈迦が岳」は、石内での呼び名です

西ヶ城

徳美城

狐ヶ城

長尾城 水晶ヶ城

6 今市城

釈迦が岳城

高山を、もっと楽しむために

高山を安全に楽しく歩くために、知っておいて 心がけたほうが良いことがありますよ。



高山は比較的軽装でも歩けますが、 安全性や快適性に十分な配慮をした クツや服装を選びましょう。

●長袖、長ズボンが標準です! かいた汗がすぐに乾く素材で、 温度調整がしやすいように、薄 手の服を重ね着しましょう

●岩場が多いので、手袋があ ると、手のケガを防いでくれます



●荷物は、手に持つよ り背中に背負えるザ ックを用意。選ぶ 時には、体に合っ たものを!

●街歩き用のスニーカーは NG!滑り止めの付いた トレッキングシュー ズを履きましょう! くるぶしまで隠れる

ハイカットタイプが、ベストです



山では何が起こるか分かりません。 出発や帰りなどの時間計画は、 余裕を持ってたてましょう。

- ●休憩は、疲れる前にこまめにとり ましょう。休憩時間を含めた帰りの 時間計画をたてましょう!
- ●秋から冬は早く日が暮れます! 日没までには帰宅できるくらいの計 画をたてましょう

- ●一人ではなく、複数の人数で歩く ようにしましょう!
- ●出かける時は、家族や知人に、ど のコースを歩いて何時までに帰ると いう計画を、伝えておきましょう!



ちょっとしたことで、 ケガを防いで、疲れを早く取る ことができますよ。

●歩き始める前には、体操やストレ ッチなど準備運動をして、体を温め て、筋肉などをよくほぐしてから 歩きましょう!

●スタートして20分くらいは、体 を慣らすくらいの気持ちで、ゆっ くり歩きましょう!

- ●呼吸は、フーフーと口をすぼめて 吐くと複式呼吸になり、酸素が多く 取り込めて気持ちが楽になりますよ
- ●すれ違う時は、登り優先です。下 る人は、安全な所で待って、道をゆ ずりましょう!
- ●グループで歩く時は、勝手な行動 は厳禁です!グループリーダーの指 示に従って、歩きましょう!

石内の山城跡

🗖 串山城 高城 有井城

京良木城

おわりに

私たちが子どもの頃、春は弁当を持って花見を行い、秋にはマツタケ やクリなどを採って食べていました。そして、落ち葉を田に入れて肥料に、 樹木は薪にしてご飯を炊き、お風呂を沸かすなど、高川は生活の一部で した。

平成20年の春から3年間、高山をこよなく愛する仲間が、高山へ月に 一度登り、小鳥のさえずりを聞きながら山の歴史を学び、動植物を観察、 山道を整備しつつガイドブックの制作に励みました。

自然が豊富な高山には、いろんな樹木や草花があり、動物や小鳥もた くさんいます。この冊子で、多くの人たちが高山に親しまれる一助にな ることを願っています。

平成23年3月

高山のガイドブックづくり講座参加者一同

高山のガイドブックづくり講座 参加者

伊藤悦二郎 内谷新太郎 内谷義美 岡眞由美 岡島義明 奥田耕司 小田イツ子 加古川辰男 片山千代子 上土井博司 久保田昭 坂田東雄 田中孝雄 田中由美子 土井由美子 信末豊 信末喜美子 橋谷田降家 広田秀徳 道添富造 山崎恵美子 吉原禮子



平成22年11月22日撮影

【参考資料】

『ふるさとの山歩き~広島県と周辺の山々』(中国新聞社)

『極楽寺川の植物案内』

『三滝山ガイドブック』

『あさきた里山いちばん~安佐北区ハイキングガイド』

『五日市町誌』

『創立百二十年誌 石内 広島市立石内小学校』

『緑のプロムナードづくり 石内・歴史と緑の散策コース』

(広島市役所)

■鳥の写真協力 木下昭治

■植物の写真協力 内谷新太郎

■高山の写真協力 内谷新太郎・久保田昭・杉田康之

■表紙題字 道添富造

いしうちのたかやま

高山(向山)のガイドブック

2011年(平成23年) 3月 初版第1刷発行

企画制作 高山のガイドブックづくり講座

植物監修 富沢由美子 (緑花文化士)

集 杉田康之(すぎたや本舗)

行 広島市佐伯区役所区政振興課

(財) 広島市ひと・まちネットワーク

広島市石内公民館

佐伯区ふるさと文庫



高山の魅力は、山ほどありますよ。 緑いっぱいの高山を、 ゆっくり歩いて見つけてくださいね。





奥原の岩場にて〜第1回「高山のガイドブックづくり講座」平成20年5月17日





いしうちのたかやま 高山 (向山) のガイドブック

佐伯区ふるさと文庫

高山のガイドブックづくり講座 広島市石内公民館